

にちぎん

2026 NO.87

秋



インタビュー 扉を開く

紫舟 書家、芸術家、大阪芸術大学教授
アートで想像力を拡張する

地域の底力

三重県伊勢市
式年遷宮を柱に多彩な試みが開花する

対談 守・破・創

日比野克彦 東京藝術大学学長・現代美術家
増 一行 日本銀行政策委員会 審議委員
社会的課題を解決する藝大の新たな使命

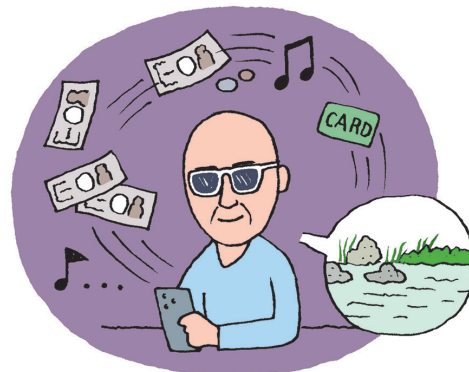
エッセイ “おかね”を語る

サンプラザ中野くん ロック歌手 AIとお金と小川と武道館

お金はおつかない！ と思って生きてきました。大人になってからです。大人になってまあまあの金額を手にして、子どもの心のまま使うと大変なことになります。お金の教室が必要です。お金の教師が、あるいは頼れるキャプテンやチームメイトが必要です。なので税理士と契約しています。しかし丸投げでしたので、毎年の申告時期に説明を受けるだけでした。

一昨年の終わりから、確定申告のための集計作業を自分でやることになりました。手間賃が大幅値上げとなったから。以前は領収書を茶封筒に投げ込んで会計事務所に送るだけでした。カードの明細や現金払いの領収書を丹念にまとめてスプレッドシート(表計算ツール)に打ち込む日々。これが交際費なのか消耗品費なのか、科目の判断に頭を使い、入力ミスを恐れ、ひたすら数字と格闘する。気がつくとも半日が消えていた、どこか結局一週間近くかかりました。頭の中は混沌。とても消耗しました。クリエイティブとは真逆の作業です。好きでもない数字と一週間にらめっこ、これが毎月繰り返されました。そんな折、クロードAIが降臨し、バイブコーディングブームが始まりました。「こんな雰囲気のプログラムを作って」とAIに伝えれば、素人でもアプリ開発ができるんです。

新しいことは大好きなので、YouTuber



絵・江口修平

AIとお金と小川と 武道館

サンプラザ中野くん

の教えに従って新境地に踏み出しました。そしてAIに一步一步手を引かれ導かれて、なんとか使える集計アプリを作り上げました。カードのCSVデータを投げ込むだけで、税理士事務所指定のスプレッドシートに落とし込んでくれる優れものです。領収書の写真をまとめて投げ込むだけでもいい。苦手だからといって見ないようにしてきた、お金の流れの実態を垣間見るようになりました。心の重荷が一つおろせたような気がしています。そうしたらお金の流れをもっとちゃんと把握してみたくなった。それ以降、日々使ったほぼ全てを支払うたびスマホに書き込むことにしました。自分で打ち込むとお金とちゃんと向き合えている感じが味わる。お金に対してゴミ屋敷だった頭の中が、徐々に整理されてきています。お金が、得^{えたい}体の知れないよどみから輝く小川の水のイメージに近づいてきています。人生、向き合い続けるといいことがある気がしてきました。

向き合い続けてきたと言えば、爆風スランプの仲間とファンの皆さんです。二〇二四年に再結成し、今年八月十一日、三五年ぶりに日本武道館に立ちました。中高生のファンが今や中高年になりましたが、大きな玉ねぎの下で、君たちに会えて「ええじゃないか」と心も清らかになりました。

さんぶらざなかのくん●ロック歌手。「爆風スランプ」のボーカルとして、「Runner」など多くの作詞を手掛ける。デビュー40周年を迎えた2024年に爆風スランプが再集結。活動休止から26年ぶりに新曲リリースとツアーを開催。25年には爆風スランプの楽曲「大きな玉ねぎの下で」が映画化。26年8月11日に、35年ぶりとなる日本武道館公演を敢行。





- 2 エッセイ／“おかね”を語る
AIとお金と小川と武道館 ロック歌手 サンプラザ中野くん
- 4 インタビュー／扉を開く
紫舟 書家、芸術家、大阪芸術大学教授
アートで想像力を拡張する
- 9 地域の底力——三重県伊勢市
式年遷宮を柱に多彩な試みが開花する
- 16 対談／守・破・創
日比野克彦 東京藝術大学学長・現代美術家
増 一行 日本銀行政策委員会 審議委員
社会的課題を解決する藝大の新たな使命
- 20 FOCUS → BOJ 55 日本銀行パリ事務所
欧州で政治と金融の交差点を読み解く

日本銀行のレポートから
- 24 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2026年7月—
- 26 「地域経済報告」(さくらレポート) —2026年7月—
別冊「地域の消費関連企業の価格設定行動の変化と2026年度の価格改定方針」
— 2026年5月—
- 32 暮らし・きんゆう塾
資産形成の基本 ——「長期・積立・分散」でお金を育てる
- 33 トピックス
「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験
『パイロット実験』の進捗報告書」を公表 ほか
- 35 AIR MAIL from Hong Kong
香港映画の復活

表紙のことは

日本銀行宮崎事務所は、昭和二十一年（一九四六）二月に、宮崎駐在員事務所として日向興業銀行（現・宮崎銀行）本店内に開設されました。その後、昭和二十三年（一九四八）二月に宮崎事務所に改称され、同年十二月に宮崎県庁本館向かいの独立店舗に移転しました。

表紙の店舗はその建物です。内部は吹き抜け構造で、高い天井を須木村（現・小林市）の国有林から切り出された樹齢約三〇〇年のケヤキの通し柱が支えました。この美しく巨大な柱は、後に宮崎県に寄贈され、宮崎県総合運動公園にある日本庭園「日向景修園」の門柱として再利用されました。

昭和四十六年（一九七二）八月、宮崎事務所は、新築された宮崎銀行本店内へ移転し、現在に至っています。開設八〇周年を迎えた宮崎事務所は、これからも地域経済の発展と県民の皆さまの豊かな暮らしを支えるために努めてまいります。



表紙・画 北村公司

紫舟

SISYU

書家、芸術家、大阪芸術大学教授

伝統的な「書」の作品にとどまらず、書と絵画を融合した「書画」、さらに、書を立体化した独自のアート「書の彫刻」など革新性あふれる表現で、日本の思想や文化を世界に発信し続ける書家の紫舟さん。NHK大河ドラマ『龍馬伝』の題字などで知られ、唯一無二の現代アートと称される斬新な作品を生み出しています。最近では、アートの力を用い想像力で人を治す「未来の病院」プロジェクトにも取り組んでいます。その意義やこれまでの歩みについて、語っていただきました。



アートで想像力を拡張する

自身の内側を見つめ、 おなかの底に眠る「書家」を見つけた

—— 幼少期はたくさんさんの習い事を
されたそうですね。

紫舟 子どもの頃の私は、何一つ夢
中になれるものはありませんでし
た。夏休みは立派な計画を立てて
も、やらない、努力とも情熱とも無
縁のまま、ただ日々をやり過ごして
いました。

だから、雨の日に泥だらけでボー
ルを追う少年や、道端でひたすら楽
器を奏でていた少女の姿に、憧れて
いました。

何かに没頭する輝きは、私になく、
しかし、人は誰しも、何かしら才能
やセンスと呼ばれるものがあり、夢
中になれる何かがきつとあると願い、
さまざまなお稽古事に挑戦する、才
能を探す旅をしていました。

—— 書道が自分の才能とは思わな
かったのですか。小学生の時に八段
まで取られたのに。

紫舟 書は、祖母の勧めで六歳から
稽古を始めました。熱心な先生に恵
まれ、人より多く練習していただけ
でした。ただ、幼いながらに、「や
ればできる」と思える自信の礎にな
るものを手放してはいけないという
思いで、続けていました。自分の道
だとは全く考えてもみませんでした。

絵を描くことは好きで、芸術家へ
の憧れを抱いていましたが、なれる
わけもなく、口に出すこともありま
せんでした。

—— 芸術系の大学には進学しませ
んでした。

紫舟 高校時代、先生から「美大や

芸大は予備校に通わないと合格は難
しい。卒業しても食べていけないか
ら、やめた方がいい」と言われ、あつ
さり自分の夢にふたをしました。

ですが大学時代、初めて没頭でき
たのが合気道でした。合気道の精神
に惹かれ、その後の人生を導いてく
ださる善き師にも巡り合えました。

依然として、才能の矛先を探し
て、靴を作ったり、ガラス作品を制
作しましたが、どこにも才能はなく、
芸術家として生きていけるとは思え
ませんでした。

それで、社会が準備してくれてい
たレールに乗って、一般企業へ就職
しました。

—— 就職先は三年で辞めています。

紫舟 大きな会社で働き始めると、
自分の将来が数字となって見えてき
ます。一〇年後、二〇年後、定年ま
での人生が計算できる。

それは安心ともいいます。私には、
ここは私の居場所ではないと分かっ

ているのに、人生が見えてしまい、
計算できてしまうことが不安でした。

当時の私は、よほど水たまりの
ようでした。人生に新しい経験や刺
激を加えても、水は澄みきることは
なくよどんだまんま。このままだつ
たら、ずーっと、このままだと感じ、
石の上にも三年を終えて、会社を辞
めました。

—— 書家になることを決断するま
で、一〇〇日間かけたそうですね。

紫舟 振り返ると、会社を辞める選
択は、人生で初めて自分で下した決
断でした。進学も就職も、覚悟はな
く選んだ気になっていただけで、本
当は決めるのが怖くて失敗もしたく
なくてただ流されていただけでした。

子どもの頃から、才能を探し続け
ても見つからなかったのだから、何
かをしながら、ではなく退路を断つ
て、見つけよう。そう決意して会社
を辞め、生涯をかけて成すべきこと
探し本格始動しました。

しかし、会社から離れると、看板も肩書も役割も消え、毎日街へ出ても行き先も目的もない。誰からも必要とされない錯覚に陥りながらも、ずっと自分に問うていました。

「私は何者？」

「何が好き？」

「何をしたい？」

「何が幸せ？」

どれも答えられず。結果、分かったことは、私は何もできない、というただそれだけでした。絶望に近い感情でした。

周囲の期待。自信。過信。志。プライド。

それまで自分を支えていたものが、一枚ずつ音を立てて剥がれ落ちていきました。

——そうする中で内側から書家という答えが出てきたということですか。

紫舟 内観を続けて、ちょうど二〇〇日目。

自信も過信も手放し、積み重ねてきたものも全て去っていった時、おなかの中のさらに奥底に、ただ一つ残っていたもの。

それが、「書家」でした。

見つけた瞬間、心がふっと軽くなりました。人の心に重さがあると初めて知りました。

私にしか感じるこのできないこ

の感覚を信じて、

「私は書家になる」

と覚悟を決めました。

思えば、六歳で書と出会い、書家を引き受けるまでこれほど長い時間がかかりました。本当の自分にふたをして、見ないようにし、気付かないふりをして生きていたのかもしれない。

——誰かの弟子になるわけでもなく、最初から独力で書家として自立されています。

一筆書きに宿る日本の精神を伝えるため、書を立体化へ

——ご自身の中で特に印象に残っている作品はありますか。

紫舟 書の役割を、書から教えられたことがあります。それが「日本一心」です。

東日本大震災から一週間後、テレビが通常番組へ戻る節目に、テレビ局から書のライブパフォーマンスの依頼がきました。

震災直後は、日本は深い悲しみと不安の中にあり人々は支え合い助け合っていました。一週間たつ頃には、誰かを責める言葉や行き場のな

紫舟 書家になると決めてからは、

神戸に小さな事務所を構えました。仕事を一緒にしたい方々へ、大きな封筒に墨で宛名を手書き。お金もなかったのでモノクロコピーした書を送り続けました。

三カ月後、当時圧倒的な活躍をされていた浜崎あゆみさんのミュージックフィルムの題字の依頼がきました。それからは、仕事が仕事を生み、たくさんのご縁をいただけるようになりました。

い苛^{いらだ}立ちが社会に広がり始めました。国難に必要なのは、誰かを責めることでも、分断でもない。多くの

人々の心を一つにし、力を合わせることに。そんな言葉を探したのですが、見つからず、新たに造ったことばが、「日本一心」でした。

この書はCOMPLEXをはじめ、多くのミュージシャンや企業、団体の方々に用いられ、復興支援活動へとつながり、被災地には多くの寄付が届けられました。

私は、書家でいながら、初めて書

の役割を知ったのです。

よい書は、人々の心を動かし、人々を一つに導き、社会を動かす力がある。その書の持つ力を、「日本一心」は教えてくれました。

——紫舟さんのすごいところは、書くことにとどまらず、書の彫刻、書のキュビズムということで、書道の世界を違う形で表現したことですか。

紫舟 海外で、大きな壁にぶつかり、「評価されること」と「伝わること」は、まったく別だと思い知らされたことがきっかけでした。

最初の展示はイタリアで、周到に準備を重ね、自信を持って臨みました。拍手喝采を受けながら、その拍手は「極東アジアには黒と白の文化があるのね」という文化の域を超えないもののように私は感じました。

成功のようにも見えましたが、帰りの飛行機で、なぜか涙がこぼれました。悔しかったのでしょうか。それから、なぜ伝わらなかったのかを真剣に考えるようになりました。

そして一つの答えにたどり着きました。例えば欧米の方は、書道を見て「輪郭を描き、その内側を黒く塗った」「何度も塗り一本の線をつくった」と受け止めます。それは彼らの文化＝油絵では筆を重ねながらそのように描き、修正しながら完成



ししゅう ● 6歳で書を始める。奈良・京都で3年間研さんを積み、東大寺で得度。2017年に天皇后両陛下(現上皇皇后陛下)が愛媛県美術館で開催の「紫舟」展に行幸啓された際、自ら作品をご案内。14年にフランス・ルーヴル美術館地下会場で開催のフランス国民美術協会展にて、書画で「金賞」、彫刻で最高位「審査員賞金賞」を日本人で初めてダブル受賞。翌年に主賓招待アーティストに選出され、日本人では横山大観以来となる大規模展を行った。主な受賞に、10年「手島右卿賞」、15年ミラノ国際博覧会日本館「展示・デザイン部門」金賞など。13年から大阪芸術大学教授。社会活動として、震災復興支援活動「日本一心プロジェクト」、書の文化普及活動「ラブレタープロジェクト」、想像力で人を治す「未来の病院」プロジェクトなどに取り組む。

へ向かうからです。

一方、書は一筆です。同じ線を二度引き直すことはできません。このように創作の前提が異なるため理解されない、書道の本質が充分には伝わっていないことに気付きました。

——確かに西洋の油絵と書は根本的に違いますよね。でも、どうしてあのような表現を始めたのですか。書を立体化しようなんて普通の人は考えつかないと思います。

紫舟 西洋が塗り重ねた「結果」を重んじるなら、日本の一筆書き文化は「過程」にこそ価値を見いだしま

す。結果に至るまでに培われる集中力、忍耐力、高い精神性、過程が全て。結果にたどりつく道こそが学び。それこそが日本の「道」の文化です。書道、茶道、武道と、我々に受け継がれてきた道文化です。

では、その精神性を言葉の通じない人にどう伝えるのか。

そこで、文字の歴史をさかのぼり、甲骨文字が平面ではないことに気付きました。紙が生まれる以前に文字は誕生し、文字は骨に刻まれていました。文字の本来の姿は立体だったといえます。文字は平面という常識

は、思い込みでした。

そしてたどり着いたのが、書を立体化するという発想です。一筆で書いた軌跡を一本の彫刻とし、筆圧は奥行として可視化していく。

こうして生まれた三次元の書は、文字が読めなくても、筆がどこから入り、どこで止まり、どこを強く押したのか視覚で読み取ることができ

「未来の病院」プロジェクト

——新しい表現で世界に書を広めてこられた紫舟さんですが、最近はどういう活動に力を入れているのでしょうか。

紫舟 はい。最も力を注いでいるのは、「未来の病院」プロジェクトです。

——活動のきっかけは、ご自身のアトピー性皮膚炎の完治だったと聞きました。

紫舟 ある日、都心の大病院で診察を受けながら、幼稚園の頃から同じような治療を受けていることに気付きました。このままでは一生治らないと思い、別の方法を試したところ、一カ月で完治したのです。治るんだと知りました。そこで、まずは自ら

ます。紙に定着していた書では伝わらなかったものが、立体にすることで伝わり始めました。

多面方向から鑑賞できるこの作品を、「書のキュビズム」と名付けました。日本人が千年以上育んできた高い精神価値を、世界に伝えたい、その一心から生まれた表現です。

医学論文や臨床研究を一〇〇本読み込み、データとエビデンスから導かれた知見を、医師や科学者とともに、互いの専門領域に踏み込むことで、新たな解決の糸口が見つかり始めたのです。

処方箋にアートが記される、「未来の病院」プロジェクトが始動しました。

——不安をなくすとか、幸福感を高めるようなことでしょうか。

紫舟 例えば、多くの不調の原因になるストレスは、不安や恐れから生じます。その不安や恐れが発生には人の想像力が関与します。想像力で傷ついたのであれば、想像力で癒や

することはできるのではないかと。

想像してください。右手でお箸を持ち、左手で梅干し壺のふたを取る。大きな梅干しをつまみ、口元まで持ち上げる。そして、梅干を食べる……。どうでしょう。

—— なんだか、酸っぱい味を感じますね。

紫舟 唾液はあふれ、すっぱさに全身が反応します。ですが私たちは梅干しを実際に見たわけでも、口にしたりわけでもありません。身体は、想像をしただけで、本当に食べたときと同じ反応を起こしました。これが、私たちに授けられた奇跡の能力、「想像力」です。

想像しただけで体が反応するなら、想像力で人を治すことができるのではと考えました。

—— 想像力の可能性を感じます。

紫舟 「未来の病院」は想像力で、自らを治す。

その処方箋に記されたのは、「アート」。

将来、病院で医師が処方箋を書くとき、「このアートを体験してください」と記す、新時代を迎えたい。すでに幾つかの作品は完成し、多くの方に体験いただいています。

想像力は普段、何に使っていますか？ あの人に傷つけられたと想像

していませんか？ イヤだイヤだと嫌なことばかりを想像していませんか？

それらに想像力を使うと、不安は増幅し、負の感情はモンスターのように肥大化し、ストレスはキラーストレスへと変わってしまいます。

それらを手放すために、自作の「地獄絵図」を護摩の炎で焚き上げるアートプロジェクトを行いました。負の地獄のような心に巣喰った感情を燃やし尽くす処方箋「地獄絵図 梵焼大護摩供」。

—— 奈良県吉野町の世界遺産・金峯山寺で二〇二三年に行った活動ですね（注1）。

紫舟 地獄絵図が、僧侶によって焚かれ、高い火炎に包まれる。

参列者には目の前で燃えゆく地獄絵図を見ながら、心の中の負の感情が燃え尽くされ消滅するイメージを持つてもらいました。のけ反るほどの熱さは容易に想像力を導きます。お焚き上げ後、参列者の多くのお顔には、晴れ晴れとした笑顔が広がっていました。

—— それらの活動はアート作品を創作することとは少し性質が異なりますね。

紫舟 考えてみますと、書が二三〇〇年以上続いてきた理由も同じでした。便利な道具が次々と生まれてもな

お、人は「書道」を手放しませんでした。それは書が人間の心に寄り添い、精神性に寄与するからです。

例えば、写経。大切な人を失った深い悲しみの中で筆を運ぶとき、人は「苦しみ」からその間解放されます。筆の持つ集中力であり、書のかを整える力です。

ところで、家族や大切な人と連絡を取る時、LINE、電話、ビデオ通話のうち、どれを一番利用しますか？

—— LINEが一番多いです。

紫舟 平安時代、人は思いを伝えるのに文を交わしていました。声を聞きたいと電話が発明され、顔を見ながら話したいとビデオ通話まで開発されました。今や無料です。ところが、結局人は、「文を交わす」に戻っています。テクノロジーが発展しても、私たちは文字を読む、書く渴望があるのでしょうか。

—— ラブレタープロジェクト（注2）もなさっていますよね。

紫舟 日本は豊かです。さまざまな手段で人とつながれる時代です。にもかかわらず、多くの人が孤独を感じるのとはなぜでしょうか。その処方箋が毎年秋に二〇年連続開催している書のワークショップ「ラブレタープロジェクト」です。

日本人にはなじみがあり集中しやすい筆で、人を孤独から切り離します。ワークショップの参加者は、誰しも誰かに必ず愛されていることを思い出しながら、同時に自分も誰かの支えになっていることを思い出します。最後に大きな和紙に大切な人へ言葉をつづる。感謝や愛情をことばにし、筆を通じて自らの手で書いていきます。会場では、あたたかな涙が流れています。

—— 芸術家を目指す次世代へのメッセージはありますか。

紫舟 自分の中からあふれてくる思いに、耳を傾けてみてください。答えは外ではなく、自分の内側にあります。

そして堂々と顔を上げ、自分の人生を生きてください。

「自分を誇りに」

—— 本日は、ありがとうございます。

（聞き手／情報サービス局長・村國聡）

（注1）金峯山寺「地獄絵図 梵焼大護摩供」／戦争や疫病、人々の心の中での地獄を焼き尽くすことを願い、二〇二三年十月二十一日、一五メートルに及ぶ「地獄絵図」四連作を金峯山寺で焚き上げた。

（注2）ラブレタープロジェクト／大切な人への思いを書けるワークショップ。毎年十月に恵比寿ガーデンプレイスで開催しており、今年で二〇周年を迎える。

地域の底力——三重県伊勢市

式年遷宮を柱に 多彩な試みが開花する

伊勢市は伊勢神宮の参拝者を
もてなす観光産業を主軸とし、
長きにわたり歩みを続けてきた。
そのもてなしの心と、祭礼や
まちへの思いを受け継ぎながら、
人々は今、それぞれの舞台で
独自の改革に挑んでいる。

歴史と文化の柱である伊勢神宮では
20年に一度、内宮・宇治橋を含め社
殿、御装束神宝などを一新する式年遷
宮が行われる。1300年以上続くその
習わしは、観光産業が主軸の地域経
済や人々の暮らしと深く関わってきた。

取材・文 山内史子
写真 野瀬勝一



「人口減の中でも、伊勢市の活力につながるように市職員の資格取得を促すなど、人材育成を目的とした環境づくりを進めています」と、伊勢市長の鈴木健一氏は話す。

二〇年ごとの 式年遷宮が住民の 生活と心の支柱に

三重県中東部、伊勢湾に面した伊勢市は、伊勢志摩国立公園が広がる自然豊かな志摩半島に位置する。地域の要である二〇〇年以上の歴史を有する伊勢神宮は、天照大御神を祀る皇大神宮（内宮）、豊受大御神を祀る豊受大神宮（外宮）を合わせた一二五の宮社の総称。広く社が点在する地域の約三割は、神宮林の緑が占める。一帯の暮らしもまた「神宮さん」「お伊勢さん」とも呼ばれる。



上／1610年頃に伊勢国山田で発行された山田羽書は、明治時代に至るまで約250年間、一帯で流通していた。山田は、伊勢神宮外宮周辺のかつての地域名。

下／山田羽書を展示する「伊勢河崎商人館」は、江戸時代中期創業の酒問屋を活用した、当時の商家の造りに触れられる見学施設。建物は国の登録有形文化財。

二〇〇九年から現職を務める市長の鈴木健一氏だ。

「お木曳は室町時代に端を発する行事で、市内各地の約七〇団体が延べ一五日間かけ、木曾で伐採された御用材を曳いて神宮さんに納めます。それ以外に

もさまざまな行事があり、何らかの形で遷宮と関わる市民は多いですね。伊勢市のことは神宮さん抜きには語れず、住民の皆さんにとっては支柱のような存在になっていると思います」

地域経済を支えてきたのも、伊勢神宮の参拝者を迎える観光産業だ。

「江戸時代は住民の六〇七割が観光産業に就いていたという

記録があり、現在も第三次産業の就業者は七割強を数えます。年間の神宮参拝者数は約八〇〇万人で、およそ八割がリピーターです。二〇一三年の遷宮時はメディアの露出が増えたこともあり、過去最大の約一四〇〇万人を記録しました。二〇年ごとに繰り返される遷宮に伴う来訪者の波は少なくとも明治時代から見られ、商売や事業の面でも伊勢をアピールする絶好のチャンスです」

その一方で、現在約一二万人を抱える人口は、長年、右肩下がりが続く。

「高校卒業後は他の地域に出ていくのが当たり前となつて久しく、例えば二〇歳を迎える人



伊勢市内の各地域団体が、遷宮のための御用材を伊勢神宮へと運ぶお木曳。数年を要する準備期間を含めて伝統と流儀が世代間で受け継がれていく。写真は川曳の様子。（写真提供：伊勢市）



は団塊の世代の頃に二五〇〇人規模だったのが、今は一〇〇〇人程度となりました。また、観光産業には繁忙期と閑散期の差があることから非正規雇用も多く、若い世代を呼び戻すために必要な働く場が限られている課題もあります。こうした中、前回の遷宮時の調査で観光客の六割が日帰りということが分かり、市では市内の観光消費額の向上のため、観光客の市内宿泊の促進や滞在時間の延伸に取り組んでいます。具体的には、宿泊施設の誘致や滞在をより楽し

んでいただけの体験プログラム
の造成といった施策の打ち出し
です。これまでの施策の効果も
あって、ここ一〇年でホテルの
客室数は大幅に増え、今では観
光の面でも若い世代がまちを誇
れるような民間の取り組みが各
所で見られるのがうれしいです」

地元だけに依存しない あらたな事業展開

伊勢市内で最もにぎわうのは、内宮の鳥居前町である「おはらい町^{まち}」だ。一九九〇年代に街並みが整えられて以降、多くの観光客が訪れるようになった。飲食店や土産物店が軒を連ねる中、大正時代の創業とされる老舗飲食店「ゑびや」の改革が興味深い。代表取締役社長の小田島春樹氏は、北海道出身。東京の大手通信会社勤務の後、二〇一二年に妻の実家の家業を継いだ。

「うちの店は、そもそもは家族経営で、立地にこそ恵まれていたものの特色があったわけではなく、手書きの帳簿を含めて

商いのスタイルは昔のまま。正直なところ、適正な仕入れや人員の管理もできていませんでした。物価上昇や人件費高騰など構造的な変化や従業員の高齢化の中での事業転換として、当初は店を縮小することも考えたのですが、『地方の企業は成長しない』『飲食業は三年で約半分がつぶれる』と言われる中、ならば自分が挑戦しようと思ったのが転機です」

小田島氏が試みたのは、DXによる独自の改革だ。

「ECのビジネスでは、アクセ

ス数などさまざまなデータに基づき商品や販売の仕組みを考えるのが基本です。それをリアル店舗に持ち込むために、画像解析カメラで計測した通行量と来店者数の比較や、POSシステムを利用した購入者の情報など広くデータを収集し、対面での販売の状況を正しく測定して解析するシステムを開発しました」

その結果、気象や周辺の宿泊状況などを基にした的中率九割の来客数予測が可能になり、フードロスや労働環境も改善。売り上げも急拡大し、地元でも



上／「自転車に乗って、未知の隣町を見に出かけた子どもの頃の好奇心を大人になっても失わないようにと、若者たちには常々伝えていきます」と、ビジネスの基本姿勢を語るゑびや社長の小田島春樹氏。下／おはらい町通りの入り口近くに立ち、経営改革後に内観、外観をリフォームした「ゑびや大食堂」。飲食スペースの他に、菓子や雑貨などが棚に並ぶ土産物店も併設。



約800メートルにわたり、観光客向けの店舗が並ぶおはらい町通り。バスや車で次の地へと急ぐようになった高度成長期には客足が落ち込んだこともあったが、昭和末期に街並みの整備が始まり、現在は多くの人出が見られる。

飲食業、屋台、物販、観光ツアーのマネジメントをリアルな感覚で学べる、あびやが開発したボードゲーム「wyEBIYA THE BOARD GAME」。



注目の的となった。

「私が始めた頃は昔ながらの営みを続ける店が多かったものの、代替わりした今は経営者の中心が三〇〜四〇代。その多くは個人経営や小規模経営ですが、弊社の改革に刺激を受けてそれぞれに工夫を凝らす健全な競争が生まれています。例えばうちが高価格帯を攻めたことで、周辺の店の価格も上がりました。仕入れをはじめおはらい町を礎とする地元企業の裾野は広いため、まちの盛況は伊勢市の活性化につながります。若い世代の経営者にとっては希望や気概を生むベンチマークになったのではないかと思います」

そう語る小田島氏は二〇一八年に、人流データの測定や分析シス

テムを提供する「E^ユB^ビI^ラL^ラA^ボB^ボ」を創業した。

「コロナ禍が記憶に新しいと思いますが、観光地のビジネスは自然災害などにより人が来なくなるリスクと常に隣り合わせです。また地元だけを相手にしていても限界がありますから、EBIYABは観光というカテゴリーにとらわれず、また地元だけに依存することもなく、事業を展開しています。商売には賞味期限があるといわれるものの、伊勢はこれまで何百年も続いてきた歴史がある。多くの方々に愛されてきたこのまちが拠点なのはありがたいことですし、まだまだできることはあると考えています」

参道の景色と人出を変えた地元住民の外宮への思い

伊勢神宮は外宮、内宮の順に双方を参拝するのが本来の習わしだが、時代の変遷とともに外宮の参拝者は減り、最寄りとなるJR・近鉄伊勢市駅から続く

参道や周辺の商店街にもその影響が及んでいた。そうした中、地域がふたたび元気を取り戻すことを目指し、活動を続けてきたのが「外宮参道発展会」だ。会長を務める山本武士氏は、実家の旅館跡でアウトドアショップやギャラリーなどを営む。

「外宮へと続くこの参道は、山田駅（現・伊勢市駅）が誕生した一八九七年につくられました。衣食住をつかさどる豊受大御神に祈願する農業従事者など、かつては駅前を中心に多くの参拝客でにぎわっていたのですが、昭和後期以降は内宮に至る道路や高速道路が整備され、おはらい町の人気が高まり人出が減ってしまいました。まちの再生を考えたときに改めて思ったのは、外宮があつてこそそのわれわれだということ。当時は、外宮や豊受大御神の大切な役割をきちんと語れる人がほとんどいなかったんです。そのため、『まちづくりは誇りづくり』というテーマを掲げ、歴史や神話の勉強会から始め、少しずつ皆さんの意識が変わっていききました」

「外宮さんに微笑んでいただけるまち」というキャッチフレーズとともに進んだ活動はやがて、荷物の預かり所やベンチ、花のハンギングバスケットの設置といった、商店街の自主的な取り組みを導く。一〇〇年以上前に名付けられた「神宮参道」を「外宮参道」に改め、後継者がいない老舗刃物店を観光交流施設「伊勢菊一」に。伊勢和紙のあんどんが彩る、風情ある景色も生まれた。二〇一三年には外宮に見学施設の「式年遷宮記念せ

外宮参道発展会の会長である山本武士氏は、江戸時代にお伊勢参りの人々を迎えて案内していた御師の流れをくむ。





上／老舗刃物店の商いをそのまま継承しつつ、外宮参道沿いの交流施設となった伊勢 菊一。情報発信の場であるだけではなく、オリジナルグッズや『古事記』をもとにした占いも人気を集める。(写真提供：外宮参道発展会)

下／伊勢 菊一の向かいに位置する「キイチ分室」では、伊勢神宮や地域に関する書籍を多数そろえ、神宮勉強会などイベントも開催。2026年8月より、インバウンドマーケティング会社と連携した取り組みもスタート。

んぐう館」が完成し、伊勢市駅前に神木を使った鳥居が設置されたことも活動の追い風になった。「内宮だけを参拝する方はまだ多いものの、外宮参道の歩行者数は一日四一〇〇人と約二〇年の間に五倍になり、参道沿いの約六〇店舗のうち七割が当会のまちづくり活動開始後に新規に開業したお店です。地域を思う若い世代も頑張ってくれている上、伊勢市駅周辺はホテルも増えて、夜の街散策はもちろん、朝の参拝などで外宮に向かう方の数は今後さらに増えると期待しています。ただ、外宮あつてのわれわれですから、商いよりもまずは、参拝客に気持ちよくお参りして

もらうことが最優先という、自分たちの矜持^{きようじ}は受け継いでいきたいですね」

地域の課題解決に つながる多角的な 事業と発想

あらたな事業では二〇一七年

に開業し、結婚式場、カフェ、宿泊施設を備えた複合施設を営む「FOLK FOLK」の展開が興味深い。代表取締役の東山迪也^{みちや}氏は大阪で照明や音響など総合音楽の理論を学んだ後、自分のスキルが活きる世界としてブライダル業界を選び、地元の結婚式場でノウハウを習得した。

「伊勢に戻ってきたのは、子どもの頃は当たり前だに思っていた自然環境の豊かさに圧倒されたからです。独立後はその資源を活用した、どこでもできるノマドウエディングというコンセプトのプロデュース会社を立ち上げ、伊勢志摩国立公園の朝熊山^{あまぐま}山頂やビーチでの結婚式も手がけました。拠点を構えた今も施設内に厨房はあってもシェフは雇わず、地域のレストランと業務提携して新郎新婦が自由にシェフを選べるようにしているほか、地域クリエイターがブライダル業界で活躍できるように、参入自由な仕組みを設けています。伊勢というステージは、自然だけではなく人も食も層が厚いのが魅力です」

数々のアイデアの開花は注目を集め、二〇二三年にはB(企業)toB、BtoG(行政)のプロデュースを担う新規事業を、翌年には志摩市の海辺にサテライトオフィスを含む複合施設「COO Blue Center」を立ち上げた。

「交流の広がりとともに、起業を応援したいとの思いが生ま



れ、NPO法人三重ソーシャルビジネスファン드를設立しました。ファンドといいながらも非営利で、三重県の発展を思う若手を支援したい県内外の経営者などから寄付を集め、魅力的な事業提案のあった起業家にそのまま渡しています。若手にとってチャレンジしやすいだけではなく、見返りを求めない分、地元の発展に貢献しなければいけない責任感が増すと思っています」

「伊勢という地方のまちだからこそ、何もなかったところに自分のアイデアを詰め込んでいく機会に恵まれている」と話す、FOLK FOLK代表の東山迪也氏。

上／漫画喫茶だった建物をリノベーションしたFOLK FOLKは、洗練された外観で周辺の景色を一変させた。ウエディング施設内のカフェは地元住民も集う場になっている。



中／公園がない地域にあらたなコミュニティを、との東山氏の思いから生まれた「FOLK FOLK Garden」。そのコンセプトや、地面に描かれたアートが遊びの場となるつくりが評価され、2024年度グッドデザイン賞を受賞。

下／子どもたちの心の成長を願い設置された、FOLK FOLK Gardenで遊ぶための心得。

社を設立するなど、事業の拡張はスピーディーかつ幅広い。

「時には企業と行政の橋渡し役も務めますが、観光の活性化や移住促進、空き家対策など、自分にとってはビジネス。地域課題解決の手段なんです。まちづくりは人づくりとも思っていて、子どもたちの人間力を高めたいと、ガーデンウエディングの場を『みんなで作る公園』として開放しました。遊んだ後はゴミを拾うなどのルールがあり、場の共有を通じて相互扶助の大切さを学んでほしいと思っています」

二〇二七年春には県外の学校法人との提携により、平日の昼間、空いている披露宴会場

を活用して通信制を主とした高校が開校される。「FOLK（人々）」を重ねた社名には、新郎新婦の双方の人々が結ばれるようにとの思いを込めたそうだが、当初のコンセプトを超えてさらなる人の縁が広がっていくことだろう。

地域に種をまく 大規模農業と 枠を超えた多様な 取り組み

伊勢市の第一次産業従事者は約三％と限られるが、一九八六年創業の「松幸農産」の先進的な視点に着目したい。そもそもスポーツジムとガソリンスタン

ドという異業種に携わっていた先代が農業に目を向けたと話すのは、代表取締役社長の松田義信氏だ。

「伊勢市は小さな農家さんばかりだったため、継承のためには将来的に大規模化が必要になると考えたのがきっかけだったと父から聞いています。隣の明和町で約〇・五ヘクタールの田を借りてスタートしましたが農業

は素人な上、地元出身でもないため、苦労は多かったようです。とはいえ県内初の農業生産法人として認可されるなど徐々に周囲の理解を得ました。最近では高齢で離農される方からのご相談が増えたこともあって耕作面積は伊勢市を含めて三〇〇ヘク

タールになり、一般顧客向けに自社米の販売も行っています」

二〇〇九年には、ブドウ園や飲食店、スイーツショップ、水遊びや動物との触れ合いを体験できる広場など、多彩な楽しさを備えた複合施設「松幸農産これから村」を明和町にオープン。ファミリー層が気軽に過ごせる場所として人気を博しているという。

「これから村は地域の活性化の一助になればと始め、名称どおり今後も充実を図るつもりですが、一方で弊社に関心を持っていただけの機会になればとの思いもあります。現在、これから村を含めた従業員は二〇代～四〇代を中心とする約五〇名



「東京にいた頃も頻繁に帰省し、お木曳などの行事に参加したほど地元には愛着がありました。年齢を重ねた今は、地域のために役立ちたいという意識がより高まっています」と話す、松幸農産社長の松田義信氏。



左／広い敷地を有する松幸農産これから村は、精米したての自社米の販売や、レストランでのかまど炊きご飯の提供も集客の魅力に。

右／松幸農産のコメ栽培は育苗から手がけ、出荷まで一貫して自社で行う。収穫後はおいしさを維持するため、もみのままコメを保存し、注文を受けてから精米する。

(写真提供：農業生産法人松幸農産)

で、半数が農業従事者です。企業ですから、従業員の福利厚生の実や、毎年の昇給面の制度はしっかりしています。また、農閑期は自由に休みが取れますが、事業や耕作地が広がる中で人手不足が生じており、農業だけではなく多様な活動ができる環境を整え、もっと人を集めることができればと考えています」

ほかにも地元の酒造会社や大学の神道学科と連携した日本酒の原料米の生産、伊勢神宮の神事の衣に多用される麻の栽培など地域に根差した試みは多く、さらには松田氏が外資系石油会社などに勤務していた縁から、輸出など海外にも進出。加えてスポーツ庁が推進するSport in Lifeプロジェクトの一環として、大学医学部と共同研究が進む、農業従事者の身体活動計測にも関心を寄せる。

「農業には肉体労働のイメージがありますが、現在は機械化が進んでおり、例えば耕作機械に乗れば座ったままで仕事が進むため運動量が多いわけではありません。作業中に収集したデー

タを基に身体への負担やけがを防ぐ成果が出れば、あらたなビジネスを生み出すシステムを提案できるのではないかと考えています」

インバウンドの拡大と若い世代への期待

市長の鈴木氏は観光における課題の一つとして、現状は神宮参拝者数の約二％に満たないインバウンド客の拡大への取り組みを掲げる。海外の富裕層をターゲットにするなど、周辺の市町と広域で連携した新規の取り組みが進む中、二〇二六年春に米国『TIME』誌の「世界で最もすばらしい場所」の訪れるべき五〇カ所の一つとして伊勢神宮が選ばれたのは朗報だろう。新しく、二〇二六年四月に外宮近くに開館した「伊勢市歴史博物館」は研究・観光施設としてだけではなく、子どもたちが地元の歴史や文化を知り、学び、地域への愛着を育む場となるはずだ。

その一方で鈴木氏は、施策を実施する市役所の職員に対して

は、「何よりも大切にしているのは、コミュニケーションと人材育成です。人のつながりや人を育むことを常に意識するよう、職員には言い続けてきました。さまざまな施策を円滑に行うためには職員自身も成長する必要がありますので、電気、土木といった専門技術やスキル向



上のための資格取得を促進しています」と期待をかける。

「伊勢の皆さんはもてなしの心が根付いている上、郷土愛が深い。二〇年という遷宮のサイクルが大きな物差しになっているため、何ごとにもせっかちなならない穏やかな気質があるのかもしれない。人の絆の深さや情報共有のしやすさといった、小さいまちゆえの強みが今後も生きてくると思っています」

千年の時を超えて代々受け継がれてきたゆつくりとした時の流れの中で、伊勢市は二〇三三年の式年遷宮を目指しながら今日も前進を続ける。



右／伊勢市東部に位置する二見興玉神社の夫婦岩は、沖合に沈む猿田彦ゆかりの興玉神石の遥拝において鳥居の役割を果たし、海と織りなす眺めを目当てに観光客が訪れる。神社がある二見浦はその昔、神宮参拝前の清めの場の一つだった。

左／伊勢神宮内宮の鳥居から正宮までは砂利道や階段があるが、車椅子の方でも参拝できるバリアフリー観光のサポートもある。

東京藝術大学在学中に脚光を浴び、以来、国内外のアートシーンを牽引してきた現代美術家の日比野克彦さん。母校である東京藝術大学にて1995年から教育研究活動、2022年から学長を務める。最前線から見えるアートの可能性とは何なのか。趣味でチェロを弾き、同大学で監事も務めた増一行審議委員と語り合った。



日本銀行政策委員会 審議委員

増 一 行

MASU Kazuyuki

1959年大阪府生まれ。82年東京大学法学部卒業、同年三菱商事株式会社入社。2013年同社執行役員主計部長、16年同社代表取締役常務執行役員 CFO など歴任し、22年退任。同年日本公認会計士協会理事、EY Japan 株式会社シニアエグゼクティブアドバイザー、24年日立Astemo株式会社取締役監査等委員、同年国立大学法人東京藝術大学監事。25年7月より日本銀行政策委員会審議委員。

社会的課題を解決する 藝大の新たな使命



東京藝術大学学長・現代美術家

日比野克彦

HIBINO Katsuhiko

1958年岐阜県生まれ。82年東京藝術大学美術学部デザイン学科卒業、84年同大学院美術研究科デザイン専攻修士課程修了。95年に同大学美術学部デザイン科助教授となり、以降、同大学で教育に携わり、2022年から学長を務める。作家活動としては、社会的課題の解決にアートを生かそうとするなど、一貫してアートのさらなる可能性を追求しており、企業や自治体などとも積極的に連携し、「アートは生きる力」を研究、実践し続けている。岐阜県美術館、熊本市現代美術館で館長を務める。主な受賞歴に日本グラフィック展大賞、芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞など多数。

多才を育む藝大の ユニークな土壌

増 日銀の審議委員に就任するまで、藝大の監事を務めており、その際には日比野学長にお世話になりました。高校のオーケストラ部に入ってから以降、今もアマチュアオーケストラでチェロを続けている私にとって、藝大は憧れの場所であり、中へ入るだけでも夢みただったんです。

日比野 藝大は来年に創立一四〇年を迎えます。東京音楽学校、東京美術学校という二つの学校が前身です。

美術も音楽もそうですが、文明開化の時に「芸術」の学び方を西洋から取り入れたので、これまでの藝大の一三九年间は、日本が大学を通してアカデミックに芸術を学ぶということをしてきた期間ともいえます。ただ一方で、日本にも江戸の庶民文化や鎌倉・室町の文化などがあり、それを継承してきたわけですね。そうした「日常の中に生活文化あり」というところを研究し発信することが、今後の藝大に求められることかなと思います。

ます。

増 藝大のキャンパスという上野が思い浮かびますが、横浜にはアニメーション専攻もありますよね。

日比野 横浜に映像研究科という大学院、北千住に音楽環境創造科、取手（茨城県）に先端芸術表現科があります。キャンパスは全部で四つです。

映像研究科は、「文化芸術創造都市」政策を推進していた横浜市に誘致していただいた経緯があり、二〇〇五年に馬車道に開設しました。アニメーション以外にも、映画やメディアアートなどもありますね。四月に新設されたゲーム専攻は上野に入れました。**増** 藝大設立の背景に西洋文化を体系的に学ぶ目的があったとのお話がありました。現在の学科の中には、日本画や邦楽などもありますよね。私が一番驚いたのは日本舞踊があったことです。

日比野 邦楽の中には鼓や箏、舞、謡曲の謡もあります。西洋音楽の中でも古楽というのがあって、チェンバロとかパイプオルガンのコースです。もともと音楽は

舞のために演奏していた。楽器だけで発表するようになったのはその後で、最初に舞があつて、その伴奏としてチェンバロとかがあつた。なので、邦楽の中には日本舞踊の先生がいます。校舎の中には能舞台もあります。

増 邦楽は子どもの頃から続けている人でないと入れませんか。

日比野 ピアノとバイオリンに関しては、小さい時からやっていないと、なかなか難しいけれども、邦楽は遅くから始めたという学生も結構います。家元で習わずに何で藝大に来るのか学生たちに聞くと、家元に行くと何々流しか教えてもらえないけれど、藝大へ行くと、お箏でも三つ四つの流派がある。いろいろな先生に教わることでできるし、ピアノ科の同級生がいたり、幅広く学べるからというのがあります。

増 取手のキャンパス内には登り窯までありますよね。

日比野 工芸科の中に漆芸とか陶芸、木工、ガラス、金属などがあつて、伝統的な素材とか作り方、道具などを研究、制作しています。

海外から視察に來られて一番驚

かれるのは、都会のご真ん中の上野に砂場があつて、その砂の中に鑄型をして、千何百度の金属を流して、最後に型を割るという伝統的な鑄金を大学で行っていることです。大型のものも作っている。上野公園の西郷隆盛像も前身の東京美術学校作です。作家自ら金属を流し込んで、大学内で創作を完結できるというのは世界的にも藝大だけじゃないかと思っています。

増 多くの人が興味を持っているのは、どんな入学試験をしているのかだと思います。

日比野 大学入学共通テストがあり、あとはそれぞれの専攻に合わせた実技試験があります。例えば、美術の絵画科なら、基本的にはデッサンがあります。その後に、油画専攻なら油絵、日本画専攻なら日本画の実技です。

増 鑄金とか彫金とか彫刻。これはどのように試験をするのですか。

日比野 大事なのは「見る力」なんです。テクニクより、見る力をしっかりと審査します。次に造形力とか発想力ということ。で、工芸とか彫刻の場合は、大体、粘土が出ますね。僕はデザイン科

だったのですが、「紙袋にリングが六個人入っている状態を粘土で作るなさい」という課題が出たのを覚えています。

社会とアートを結ぶ活動の起点となった「銀行のお茶」

増 学長は、岐阜県で過ごした幼少期に、社会とアートのつながりを感じる出来事があったそうですね。

日比野 岐阜大学附属小学校にバス通学していた、一年生の時のことです。バス停の前のクーラーが効いている建物に冷たいお茶が出る機械があつて、紙コップにお茶を入れて飲みながらバスを待つというの、児童の間で流行ったんです。学校が終わるとその建物までダッシュして、というのをしばらくやっていました。

そうしたら、あるとき担任の先生が「みんな最近、建物の中でバスを待っているそうですね。今日、銀行の人から連絡がありました」と。担任の先生が面白かったのは、秋の文化祭に「銀行のお茶」という創作劇をやったことです。ドキュメンタリー的に一年生が演

じたのですが、その場に銀行の人を招いて、最後に「ありがとうございました」とメッセージを伝えるお芝居でした。



増 銀行の人からクレームが来て怒られるのかと思ったら、そうではなくて、学校の先生が感謝を伝える創作劇に持っていかれた。

日比野 僕は今、社会的課題に対してアートで解決するというようなことをやっているんですけど、この「銀行のお茶」が起点になっているんじゃないかなという気がします。

増 学長の今のアートと社会のつながりを進める姿にも通じるエピソードですね。藝大に進学して、デザインを専攻されたのはなぜですか。

日比野 中学校の時の美術の先生がデザイン系の方だったので。もし先生がデザインじゃなかったら違っていたと思います。

増 小学校、中学校での先生との出会いが、その後の人生に大きな影響を与えたんですね。

日比野 最近では、図工や美術、音楽の時間が軽視されているのではないかと危惧しています。公立の小中学校で専任の図工や美術の先生が減らされ、いくつかの学校を兼任するケースが増えていて、図工室を使わず、プリントやタブ

レットを用いた短時間の授業になってしまいうちもあると聞いています。絵を描いたり歌ったりというのは、感性を養う教育です。初等教育は、感性をしっかりと育むことが重要だと、根本的なところで対して意見を言っていく必要を感じています。

増 理系教育を重視して、お金を稼げる人材を育てようという考えは、ちよつと違うように思っています。たところですので、学長が話されたことはすごく刺さりました。

ところで、藝大は地方での活動も盛んです。二〇二三年に包括連携協定を結んだメガバンクグループとは、どのような取り組みをされていますか。

日比野 地域を元気にするというのが銀行にとって重要な役割というところで、メガバンクのある地方支店と連携し、お茶を飲みながら会話して、アートを作るワークショップ「銀行のお茶会」等を開催しています。

増 地域金融機関がやるべきことかもしれないですね。

日比野 先日、同社主催の交流会に招かれ、グループトップの社長

と掛け合いのショートプレゼンテーションをしたところ、社長からは、「藝大と地域を活性化するワークショップをやっています。ぜひ地銀も第二地銀も一緒になって地域展開していきましょう」と呼び掛けてくれました。後日、一緒にやりましょうといった連絡を複数先から頂きましたので、今後、地域金融機関がアートで地域活性化を推進する動きが広がることを期待しています。

文化芸術への投資が社会課題を解決する

増 藝大の監事をしていた頃に感じたのは、建物や設備が老朽化していることです。

日比野 一番古いのは美術学部の中にある中央棟ですが、国の施設関係の予算は古い建物から順に配分されるので、なかなか順番が回ってきません。

増 音楽学部側で気になったのはレッスン室などです。古くて、音も漏れてくる。これが天下の藝大かとびっくりしました。

日比野 施設もそうですけど、実はピアノの確保も重要です。とい

うのも、特にレッスン用のピアノは使用頻度が高いんですよ。みんなほとんどたたく。そうすると、一〇年ぐらいでかなり傷みます。

音楽は耳が命ですから、調律できていないピアノを弾いては駄目だということ、今、アカンサス倶楽部という寄付制度を整えています。そのかいあって、数カ月で七、八台を寄付していただきました。

増 藝大なら、いくらでも寄付が集まるとの誤解があるのですが実情をお話してください。

日比野 ピアノとか仏像の修復費などの具体的なものに対してはある程度の寄付を頂けるのですが、大学自体への寄付を集めるのは難しいです。「藝大を支援してください」となると、自分の寄付金の行方が見えず、何となくふわっと吸い込まれるような印象があるのでしょうか。

増 学長がなさっている「社会とアート」というテーマで寄付を募ってはいかがですか。

日比野 寄付を頂くには、文化芸術によって社会的課題を解決していけるというエビデンスを見せる必要を感じています。文化的処方

という、文化芸術に接することによって健康寿命が延びる、認知症になるのを先延ばしできる、元気で働ける年数が増える、といった効果を証明する必要があると。例えば、美術館に行く人と行かない人の健康面への影響を統計によりできるだけ数値化し、こういう傾向がありますよ、文化芸術に投資すれば病院や福祉施設などの支出を減らせますよ、と数値で示していくことが大事だと考えています。

増 大学の運営費交付金は、二〇〇四年の国立大学法人化以降、減少傾向が続いていましたが、どうなりましたか。

日比野 特に大学病院が逼迫（ひっ迫）して、このままでは存続できないというところで、国立大学協会として動き、二〇二六年度は交付金の増額が認められました。

増 物価が上がっている中で交付金が減り続けるのは、大変だろうなと心配していましたが、増額が認められて良かったと思います。

処遇面の制約から優秀な研究者や指導者の獲得に悩んでいる大学が多いとも聞きます。

日比野 人材育成面でも実益が見

えやすい理系を重視する傾向があるわけですが、実は文化芸術こそがメインの産業になり得るということ、国全体としてもっと意識する必要があると思います。インバウンドが拡大する中、外国人が何を見に来るかという文化芸術なのですから。

よく言われるアニメだけじゃなく、伝統的な文化、例えば浮世絵、茶道など、海外から見ると、とても不思議な高い精神性を有する文化芸術が日本にはあるわけで、これらを支えていく人材をしっかりと育成していく必要があると考えています。

増 今のご指摘は核心に迫るものだと思います。最後に、芸術を仕事にすることについてお聞かせください。

日比野 （壁に掛けられた絵を指さして）例えばこの絵ですと、今までの美術だとこれは何年にどういう作家がどういう技法で描いた絵で、というモノとしての解説になる。しかし、作家がなんでこれを描いたのか。中世の街並みの記憶であるとか、描かれた二人が何を話しているのかとか、絵に代弁

してもらいながら鑑賞者とのコミュニケーションの素材としていくと思いますが、これからは求められていくと思います。美術館というのは有名な絵が飾つてある場所ではなくて、いろいろな時代とか社会と出会う文化施設に変えていくということです。最近は創作のモチーフを語るようなギャラリートークも増えています。

作家がなぜ創作をするかといえ、自分の考え方を鑑賞者に伝えたいという思いがあるからです。売るため、生活のためということの結果ではない。教育研究機関である藝大としては、やはりそこを明確にして学生たちを指導したい。なぜ絵を描くのか、なぜ自己表現するのか、何を伝えたいのか。アーティストというのは、ただ作品を作るだけではなくて、創作を通して社会的な課題を解決できるところまで想像していくことがとても重要だと思います。

増 藝大時代には学長とは大学運営の話ばかりしていましたが、本日は芸術の本質のお話を伺えました。本当にありがとうございました。

日本銀行パリ事務所

欧州で政治と金融の
交差点を読み解く

欧州は複数の国家が独自の歴史と文化を持ちながら、EU（欧州連合）という超国家的な枠組みの下で共存する、世界でも類を見ない地域です。政治や経済の仕組みが重層的で複雑なこの地域において、現地ならではの情報を収集し、日本銀行の政策判断を支える最前線となっているパリ事務所のご紹介します。

ある夏の日の朝。パリ事務所駐在員の塩原^{しんぐん}さんは、ベルギー・ブリュッセルの欧州委員会（EUの行政機関）の建物前で、その日の面談に備えていました。パリ事務所の駐在員が、どうしてブリュッセルにいるのでしょうか？

EUと国家の二重構造

この素朴な疑問に答えるには、欧州が「EUと国家の二重構造」であるという、基本的な成り立ちを改めてひもとく必要があります。

皆さんもニュースなどで、「〇〇についてEUが決定を下した」といった言葉

を耳にすることがあるかもしれません。EUは、それ自体が一つの国と同様、行政・立法・司法といった機能・機関を有しています。こうしたEUの公的機関のために働く人は約五万人に上るとも言われます。

日銀パリ事務所は欧州で、フランス・イタリア・スペインといった主要国に加えてベルギーも管轄しており、そこには多くのEU機関が置かれています。そのため所員は「EUの首都」たるブリュッセルにも頻繁に足を運び、現地での議論をフォローしているのです。

特に最近、ブリュッセルでの情報収集は一段と重みを増していると、駐在員ら

を束ねる渡邊明彦パリ事務所長は感じています。

「欧州では『平和の配当』の時代が転換期を迎え、防衛問題や経済安全保障など市民生活に直結する問題に直面する中であって、新たな欧州のあり方を模索する途上にあります」

と、渡邊所長は話します。



ブリュッセルのEU議会関連施設は
美しい公園の中にあります。



「そうした中で、本来であれば純粹に金融・経済的なトピックとして議論されるようなテーマが、政治的な議論の対象へと変貌してきています」その例はEUの経済・財政政策や銀行監督にとどまらず、デジタルユーロや決済システムを巡る議論に及びます。

EUという巨大な存在がありつつ、その内側で各国の思惑がぶつかり合い、政

治の力学で物事が決まっていく。

「そんな中、公表される経済統計や表面的な金融の事象だけを追っていては、本質を見誤ることになりかねません」と、冒頭の塩原さん（EU担当）は話します。

「日銀の政策判断に役立つような動向を読み解くには、識者との膝詰めでの対話が欠かせません。その実現には、現場での確かな信頼関係の構築が必要です」

各国動向の重要性と言語の壁

もちろん、ブリュッセルだけを見ていればいいということはありません。

「EUは、多様な歴史・文化を持った主権国家の集まりです。EU機関だけでなく各国の経済・政治情勢の最新動向や変化など、ダイナミズムを幅広く把握することも、パリ事務所の重要な任務です」各国の調査を担当する岡田敦希駐在員は、そう話します。

「特にフランスは、ドイツに並ぶ大国として欧州全体の意思決定に大きな影響力を持っています」

と、岡田さんは続けます。

国際政治が揺れ動く中、大陸欧州で唯一核兵器を保有するなど、安全保障分野で存在感が大きいのがフランスです。また、原子力発電が広く普及し、農業も盛

んなのでエネルギー・食料ともに自給率が高く、足腰の強い国でもあります。金融業界で言えば、G-SIBs（グローバルなシステム上重要な銀行）が大陸欧州で一番多いのもフランスです。

さらに、経済協力開発機構（OECD）や国際エネルギー機関（IEA）など、よく知られた国際機関もパリに本拠地があります。世界で約三・九億人の話者を擁する「フランコフォニー（フランス語圏）」の中心として、国際社会での存在感は日本から見るとはるかに大きく感じられます。

当地での情報収集には、この言語の壁が付きまといま。英語話者が増えたとはいえ、パリの現場ではまだまだ、フランス語を使った方が、深い信頼を築ける場面もあるのです。

駐在以前にパリに留学していた塩原さんは話します。「ある時本店から、『アメリカの中銀関係者と英語で意思疎通がで



パリには多くの国際機関が立地しています（IEA前に立つ渡邊所長）。

きないので、フランス語でやり取りしてくれないか」と頼まりました」

塩原さんは留学先での語学クラスの経験も活かして連絡を取り持ちましたが、その際には「事務所のローカルスタッフにも大いに助けられた」と振り返ります。



現地スタッフはフランス語、英語、時にはイタリア語も駆使して駐在員をサポートする頼もしい存在です。

信頼の再構築

少し時をさかのぼると、パリ事務所が長年にわたり、地道に築いてきた信頼関係が揺らぎそうになった時期もありました。二〇二〇年に始まったコロナ禍では、各国関係者との対面でのつながりが寸断されてしまったのです。

「信頼関係」の裏には拘束力も強制力もありませんから、こればかりは仕方ありません。しかしこうした逆境にもめげず、ここ二年ほどパリ事務所では、欧州

各地でのネットワークを再び強固にするため、地道にプロセスを進めてきました。こうして積み上げ直した関係は、時に思っても寄らない、大きな力を発揮することがあります。

「東京で関係を築いていたイタリア中銀の方が起点でした」と渡邊所長以下、塩原・岡田両駐在員は最近の印象深いエピソードとして、偶然の出会いからつながった情報収集の成功体験を振り返ります。

「そのご縁からパリでのレセプションに招待いただき、そこで偶然会話をした方が、当地で現金流通を管轄するフランス内務省の関係者だったのです」

「その方を通じてフランスの発券業務分野での人脈が一気に広がりました。結果として、フランス中銀関係者のほか、パリ貨幣博物館(注)の方との関係構築なども実現し、本店に対して有益な情報をつなぐことができました」

机上の空論だけではない、現場での地道なコミュニケーションと、偶然の出会いをも確かな信頼に変えていく努力こそが、パリ事務所の真骨頂です。

歴史の中で パリ事務所のルーツ

ところで、日銀と大陸欧州、特にフランスやベルギーとの縁は長い歴史があり、

最近始まったわけではありません。

さかのぼること明治時代、日銀の創設者である松方正義が欧州を視察した際には、当時のフランス大蔵大臣レオン・セーと面会しました。セー大臣がその際、日本の中央銀行設立のために最も適したモデルとしてベルギー国立銀行を挙げ、松方に視察を促した、というのは有名な話です。

こうした縁もあり、欧州における日銀の活動の起源は古く、一九一七年二月には既にパリに駐在員が置かれていました。今回、パリ事務所のルーツや日・仏中銀間の関係をより詳細に探るため、フランス中銀の歴史担当者にインタクトを取ったところ、貴重な資料やエピソードをわざわざ探して、快く共有してくれました。これによれば戦前から長いこと、フランス側も日本経済の動向を気にか



フランス中銀職員から、建物の歴史や当地の貨幣に関するレクチャーを受ける様子。学ぶことがたくさんあります。



G7の会合現場で、欧州の中銀職員と。
苦労を共にすれば絆も深まります。

ていたようです。また、一九七〇年代半ばからはフランス中銀からも日本に幹部候補を派遣し、金融・経済の動向を丹念にフォローしていたんだとか。

さらに関係者との対話からは、一九五二年の本格的なパリ事務所開設当時、日銀駐在員がフランス中銀内にオフィスを一時的に間借りさせてもらっていた可能性も示唆されました。フランス中銀から、時代を問わず手厚いサポートを提供いただいていたことの証左です。現代にいたり、こうした相互交流の一つの象徴として、二〇〇八年には日仏交流一五〇周年を記念する合同シンポジウムを開催。また、二〇二六年五月には、パリの地でG7財務大臣・中央銀行総裁会議が開催され、パリ事務所も日本代表団の活動を支えるべく、現地で尽力しました。

こうした歴史的な交流の物語の中に今のパリ事務所があることを所員たちは常に心に置き、日々のつながりを大切にしています。

激動の時代における決意

「フランス」「パリ」という言葉からは芸術やグルメといった文化が思い浮かび、金融・経済とは少し遠い印象を抱かれるかもしれません。しかし、日銀がこの国に拠点を置く意義は、そうした華やかな印象とはやや異なるところにあります。冒頭で触れた「EU」という枠組み一つをとっても、その歴史がフランス人によって形作られてきた一面は見逃せません。欧州統合の父として知られるジャン・モネは、かつての大戦の教訓から、国家間の不信を経済的な相互関係によって克服するという壮大な構想を描きました。また、欧州委員長として単一通貨・ユーロへの道筋をつけたジャック・ドロー

ルも、フランスが生んだ統合の旗手でした。「欧州の新たな秩序を築いた先人を輩出してきたこの国に身を置き、金融・経済だけでなく政治の視点も含めて複眼的に欧州を見つめ直すと、日本から見えるものとは異なる景色を感じ取れます」と、岡田さんは思いを率直に語ります。

かつてのように『西側諸国』をひとくくりにでき、当たり前前にその恩恵を享受できてきた国際協調が、従来通りには働かなくなってきた「激動の時代」。こうした変化は当地で、地政学リスクの高まりという形で突如として姿を現すこともあります。

「本年三月にキプロスで開催予定だった国際会議が、地政学的な緊張の高まりから直前で中止になり、慌てて出張を取りやめました。対面のつながりが再び絶たれてしまうリスクが今後高まらないか、警戒感を持って注視しています」

と、渡邊所長は表情を引き締めます。変化が激しく、情報が瞬時に世界を駆け巡る現代においても、事実の裏側にあ

る真に重要なコンテクスト（背景事情）は、人と人との信頼のつながりからしか得られません。パリ事務所の面々は今日も現地で地道に対話を重ね、信頼の糸を紡ぎながら、欧州の真の姿に迫り続けています。

（肩書などは二〇二六年五月時点の情報をもとに記載）

（注）パリ貨幣博物館訪問については広報誌「にちぎん」二〇二五年冬号巻末「AIR MAIL」をご覧ください。





日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。また、展望レポートの内容を、より幅広い読者に伝えるための取り組みとして、そのポイントをイラストとともに簡潔に整理した資料（ハイライト）を公表しています。本稿では、2026年7月の展望レポート・ハイライトをご紹介します。

*全文は、日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm>



「経済・物価情勢の展望」（展望レポート・ハイライト）

—— 2026年7月 ——

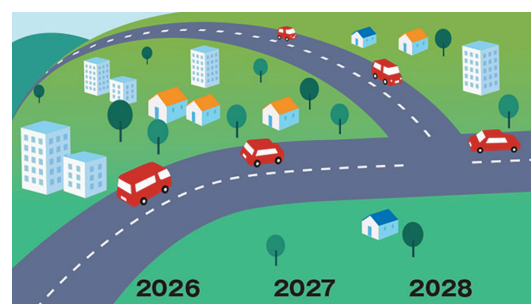


日本経済は緩やかな成長を続ける

日本経済は、中東情勢の影響を受けた原油価格上昇により下押しされますが、AI関連需要の増加や政府による各種施策などが下支えとなり、伸び率を縮小しつつも緩やかな成長を続けます。

消費者物価の前年比は、原油価格の上昇に加え、AI関連需要の増加に伴う半導体価格などの上昇や、為替円安の影響から、今年度後半以降、二%をはっきりと上回ります。その後は、原油高の影響が弱まっていき、再来年度にかけて二%程度に向かいます。この間、一時的な変動を取り除いた消費者物価の基調的な上昇率は、徐々に高まっていき、二%の「物価安定の目標」と概ね整合的な水準で推移します。

物価は二%程度に向かう





中東情勢、AI関連需要、 為替相場の変動が経済・ 物価に及ぼす影響に注意

経済・物価の見通しに対するリスク要因としては、中東情勢、AI関連需要の動向、為替相場の変動などに注意が必要です。企業の賃金・価格設定行動の積極化や中長期的な予想物価上昇率の上昇などを踏まえると、基調的な物価上昇率が二％の「物価安定の目標」を超えて上振れていくリスクがあります。

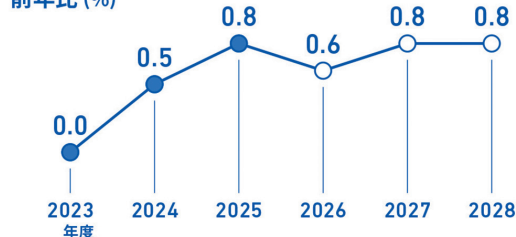
二％目標のもとで金融政策 を運営していく

金融政策運営については、経済・物価・金融情勢に応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくことになると考えています。調整のタイミングやペースは、経済・物価の見通しが実現する確度やリスクを点検しながら、検討していく方針です。とくに、基調的な物価上昇率を二％程度の水準で安定させていくという観点が重要になると考えています。

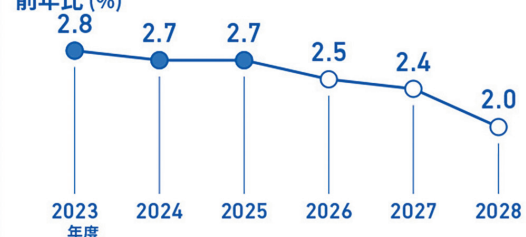


政策委員の経済・物価見通し

実質GDP
前年比(%)



消費者物価指数(除く生鮮食品)
前年比(%)



(注) ●は実績値、○は見通しです。



日本銀行のレポートから

日本銀行では、本支店・事務所が企業への聞き取り調査等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、「地域経済報告」(さくらレポート)として、支店長会議の機会ごとに取りまとめています。また、今回取り上げる「地域経済報告」(さくらレポート)別冊シリーズは、中長期的な観点からみた地域経済の課題など特定のテーマに焦点を絞った調査の結果を取りまとめたものであり、その時々々の景気情勢に焦点を当てる「地域経済報告」を補完するものです。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm>



「地域経済報告」(さくらレポート)

I. 各地域の

景気判断の概要

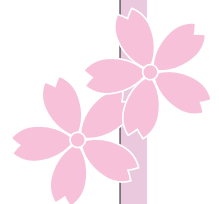
—二〇二六年—

七月—

一部に弱めの動きもみられるが、すべての地域で、景気は「緩やかに回復」「持ち直し」、「緩やかに持ち直し」としている。

	【26/4月判断】	前回との比較	【26/7月判断】
北海道	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している	➡	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している
東北	持ち直している	➡	持ち直している
北陸	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
関東甲信越	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	➡	中東情勢の影響もあって一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
東海	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
近畿	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
中国	緩やかな回復基調にある	➡	緩やかな回復基調にある
四国	緩やかに持ち直している	➡	緩やかに持ち直している
九州・沖縄	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している

(注) 前回との比較の「➡」、「➡」は、前回判断と比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す(例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」)。なお、前回判断と比較して景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



Ⅱ. 別冊「地域の消費関連企業の価格設定行動の変化と二〇二六年度の価格改定方針」——二〇二六年五月——

【要旨】

長年続いた賃金・物価が上がりにくいことを前提とした慣行や考え方はここ数年で変化しており、地域の消費関連企業の価格設定行動も従来よりも積極化している。そうしたもとで、最近では、消費者の節約志向やメリハリ消費の動きに対応する様々な工夫を凝らしつつ、原材料費の上昇分だけでなく、人件費等の上昇分を販売価格に転嫁する価格改定の動きが着実に広がっている。この背景には、①高水準の賃金改定率や最低賃金の引き上げが続いていること、②家計において製商品・サービスの価格が緩やかに上昇するとの見方が続いていること、③競争力の高い大企業等が先行して値上げを実

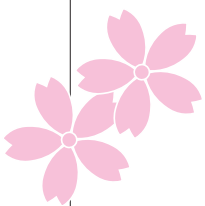
施していることにより、地域の消費関連企業でも値上げができるようになってきていること、④一部の地域・業界では競合企業の減少等から価格競争が幾分緩和していること、⑤納入先が価格の安さよりも安定調達を重視するようになっていくこと、⑥政府が適正な価格転嫁の実現に向けた取り組みを強化していること、があげられる。

二〇二六年度の価格改定方針に関しては、大半の企業が、自社の人件費および取引先の人件費由来のコスト上昇分の転嫁のため、値上げを計画していることが確認された。中東情勢の混迷が明らかになる前までは、食料品などにおいて既往の原材料価格の上昇が落ち着いてきたことを受け、二〇二五年度対比で値上げ幅の縮小を計画

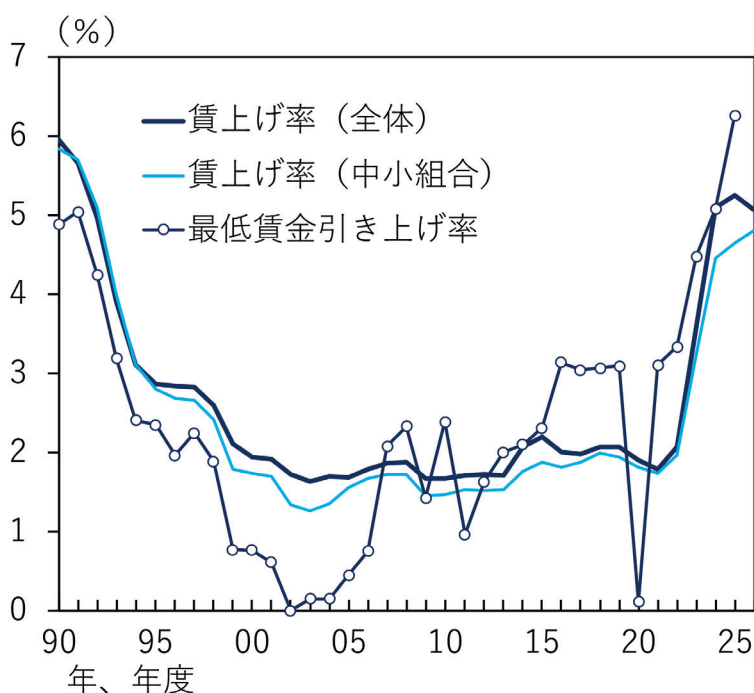
している企業が多かった。もっとも、中東情勢の影響を受けて、燃料・エネルギーコストや石油関連製品の仕入コストの大幅上昇に直面する企業が値上げ幅を拡大する計画を示し始めている。具体的には、石油由来の日用品や包装コストが上昇している食料品などの製造業のほか、温浴施設などの生活関連サービス業や飲食業において、一部に値上げ幅拡大を決定する動きがみられた。このほか、コストがどこまで上昇するか等を見極めたうえで、近々、値上げ幅を拡大するかどうかを決定するとの声が聞かれ、具体的な値上げのタイミングとしては、夏場以降を検討しているとの指摘が聞かれた。ただし、小売業の一部からは、競合他社の出方を様子見する必要がある

あるとして、今後、商品の仕入価格が上昇したとしても、販売価格への転嫁は慎重に進めるとの声が聞かれたほか、サービス業でも、国内外の景気が下押しされ、需要が減少するとの懸念から、中東情勢の影響による追加的なコスト上昇分まで販売価格に転嫁していくことは難しいとの声も聞かれた。

日本銀行としては、高水準の賃上げを受けた人件費上昇の販売価格への転嫁が継続する中、中東情勢の展開が、今後、地域の消費関連企業の価格設定行動をどのようなに変化させるのか、引き続き丹念に点検していきたい。



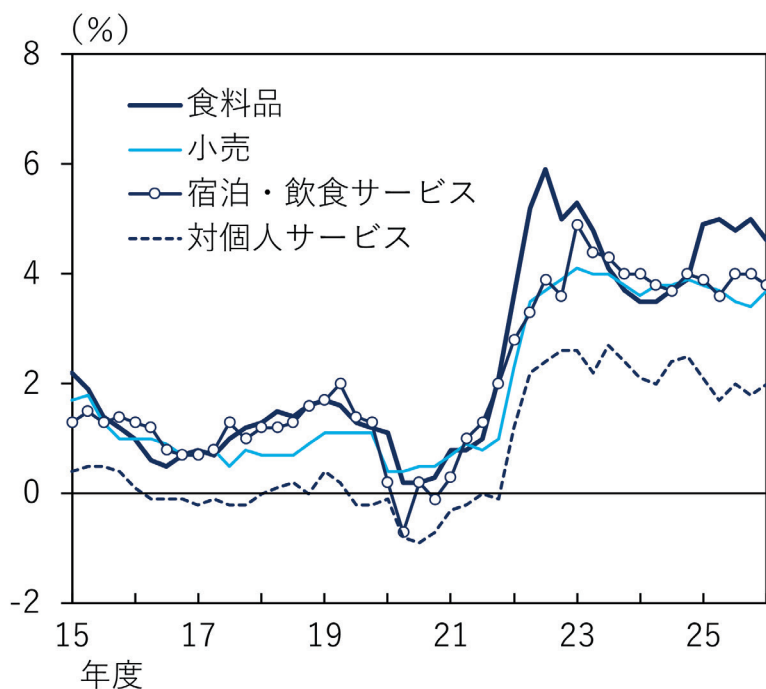
図表1 賃上げの状況



(注) 賃上げは、ベースアップ+定期昇給を指す。2026年の賃上げ率は、第5回の集計値。中小組合は組合員300人未満。賃上げ率は、暦年ベース、最低賃金引き上げ率は、年度ベース。

(出所) 日本労働組合総連合会、厚生労働省

図表2 販売価格の見通し



(注) 短観ベース。消費関連企業の1年後の販売価格の見通し。現在の水準と比べた変化率（平均値）。企業規模は中小企業。

(出所) 日本銀行

1. はじめに

わが国では、コロナ禍以降の輸入物価の大幅な上昇や労働需給の引き締め等を契機に、賃金・物価が上がりにくいことを前提とした慣行や考え方はここ数年で変化

している。実際、近年の賃上げ動向をみると、大企業に加え、中小企業においても、人材の確保・係留を図るため、高水準の賃上げが続いている。また、短観における消費関連の中小企業の販売価格の見通しをみると、高水準が維持さ

れている（図表1、図表2）。こうしたもと、日本銀行では、二〇二六年一月から四月にかけて、地域の消費関連企業の価格設定行動等についてヒアリング調査を実施した。具体的には、近年の価格設定行動の変化とその背景、

コスト上昇に対応するための価格戦略、二〇二六年度における価格改定方針についてヒアリングを行った。本稿はその調査結果の取りまとめである。

2. 近年の価格設定行動の変化とその背景

今回のヒアリング調査では、地域の消費関連企業において、原材料費の上昇だけでなく、人件費等の上昇分を販売価格に転嫁する価格改定の動きが着実に広がっている姿が確認された。

具体的にみると、長年続いた賃金・物価が上がりにくいことを前提とした慣行や考え方が変化すると、人件費上昇分を転嫁する動きが幅広い企業の間でみられるようになってきているほか、すでに人件費上昇分を一定程度転嫁していた企業でも、その転嫁の程度を高める動きもみられている。また、製商品・サービスのサプライチェーンの各段階で人件費上昇分の価格転嫁が進展すると、川下の企業には取引先の人件費の転嫁をきっかけとしたコスト上昇圧力が、仕入費用、外部委託費用、物流費用等の上昇分といった形でか

かり、それらを販売価格に転嫁する動きがみられている。ただし、一部の企業において、顧客離れへの懸念等から人件費上昇分の販売価格への転嫁はなお難しいとの声は引き続き聞かれた。

このように人件費をはじめ各種コストの上昇分を販売価格に転嫁する価格改定の動きが着実に広がっている背景について、①高水準の賃金改定率や最低賃金の引き上げが続いている、との指摘が最も多くみられた。加えて、そうした企業では、労働需給の引き締まりが今後も続くとの見方から、先行きも自社の人件費や取引先等の人件費由来のコストが継続的に上昇することを見込んでいる。

また、②家計において製商品・サービスの価格が緩やかに上昇するとの見方が続いているとの指摘がみられた。

このほか、③競争力の高い大企業や地域のプライスリーダー企業が先行して値上げを実施している

ことにより、地域の消費関連企業でも値上げができるようになっていくとの指摘、④一部の地域・業界では、人手不足等を理由に競合企業が減少し、価格競争が幾分緩和している結果、コスト上昇分の価格転嫁が進むようになっていくとの指摘、がみられた。

この間、消費関連の企業間取引においては、⑤納入先が価格の安さよりも安定調達を重視するようになっていくこと、⑥政府が適正な価格転嫁の実現に向けた取り組みを強化していることから、以前よりも価格転嫁が進んでいる、との声が聞かれた。

3. コスト上昇に対応するための価格戦略

地域の消費関連企業は、人件費をはじめ各種コストの上昇に直面する中、消費者の節約志向やメリハリ消費の動きに対応する様々な工夫を凝らしつつ、価格改定を進めている。販売価格の引き上げを

実現するための具体的な戦略としては、①製商品・サービスの価値向上を伴った高価格化、②高級業態の出店による価格帯の引き上げ、③需要や価格感応度に応じて強弱をつけた価格設定、④付随サービスの値上げや新たな料金体系の導入、⑤コストに応じたサービスの有償化や簡素化、⑥AIやデジタル技術を活用した価格の最適化、などがみられている。以下では、①～⑥の戦略とその背景にある考え方を整理する。

①高付加価値の新商品や限定商品を投入する動きが広がっている。そうした商品・サービスは、発売時に特定の価格イメージがなく、コストに見合った価格設定ができるほか、発売後も需要が価格に左右されにくいいため、コスト上昇分を販売価格に転嫁しているとの声が聞かれた。

②既存店舗と差別化した高級業態を出店する動きがみられている。①と同様、既存店舗では、消

費者が持つ価格イメージを大きく超えた値上げが難しいため、高級業態の出店により販売価格への転嫁を進めている。

③製商品・サービスごとに、需要や価格感応度に応じて、強弱をつけた価格設定を行う動きが広がっている。価値を感じるものには支出を惜しまない消費行動の強まりがみられる中、観光・レジャー関連やイベント関連、インバウンド向けなどの販売価格は引き上げる一方、日常消費関連の価格は引き上げを抑制するといった価格設定行動が広くみられている。

④需要への影響が大きいとみられる製商品・サービスの値上げを抑制する一方で、需要が価格に左右されにくい付随サービスの値上げを行う動きや、飲食業における深夜料金の導入など、新たな料金体系を導入する動きがみられている。

⑤サービスに対してコストに応じた適正な対価を求める動きが広

がっている。すなわち、無料で提供していたサービスを廃止・有料化する動きや、価格を据え置きつつ、サービスを簡素化する動きがみられている。

⑥価格設定にAIやデジタル技術を活用する動きがみられている。需要動向等に関するデータの収集・分析の高度化等を通じて、需要やコストに見合った精緻な価格設定が可能となっているほか、価格改定頻度を高めることも可能となっており、価格設定の最適化につながっているとの声が聞かれた。

4. 二〇二六年度の価格改定方針

このように、地域の消費関連企業が価格設定行動を従来よりも積極化する中、二〇二六年度も、大半の企業が、自社の人件費上昇のほか、取引先の人件費由来の仕入費用、外部委託費用、物流費用等の上昇を受け、値上げを計画していることが確認された。その中で

もここ数年上昇幅の拡大が続く最低賃金の引き上げによる影響を指摘する企業が多かった。ただし、中東情勢の混迷が明らかになる前までは、食料品などにおいて既往の原材料価格の上昇が落ち着いてきたことを受け、二〇二五年度対比で値上げ幅の縮小を計画している企業が多かった。

もつとも、中東情勢の影響を受けて、燃料・エネルギーコストや石油関連製品の仕入コストの大幅上昇に直面する企業が値上げ幅を拡大する計画を示し始めている。

具体的には、石油由来の日用品や包装コストが上昇している食料品などの製造業のほか、温浴施設などの生活関連サービス業や飲食業において、一部に値上げ幅拡大を決定する動きがみられた。このほか、現時点では価格引き上げには踏み切っていないものの、コストがどこまで上昇するか等を見極めたうえで、近々、値上げ幅を拡大するかどうかを決定するとの声

が聞かれ、具体的な値上げのタイミングとしては、夏場以降を検討しているとの指摘が聞かれた。

この間、コスト上昇を速やかに販売価格に転嫁するための取り組みもみられている。具体的には、今回の急速かつ急激なコスト上昇に対し、燃料や樹脂製資材の使用量が多いクリーニング業からは、中東情勢の影響が落ち着くまでの期間だけ値上げを行うとの声が聞かれた。加えて、従来、あまりみられなかった動きとして、温浴施設などの生活関連サービス業や樹脂製包装資材の使用が多い食料品製造業といった消費者向けの業種でも、原油価格の変動を販売価格に反映させるためにサーチャージ制の導入が必要との声が聞かれた。

このほか、二〇二二年のウクライナ情勢などの影響を受けた物価上昇局面と比較すると、原油価格や穀物価格などの動きが異なるものの、今回は、消費関連企業が値上げを決断するまでの期間が短期

化する可能性があるとの指摘もあった。前回は、値上げを決断するまでに、社内での議論や取引先との交渉に相応の時間を要した一方、今回は、近年、値上げを続けてきたことにより、そうした調整が比較的速やかに進むようになっていることが背景にあるとの声が聞かれた。

ただし、小売業の一部からは、競合他社の出方を様子見る必要があるとして、今後、商品の仕入価格が上昇したとしても、販売価格への転嫁は慎重に進めるとの声が聞かれた。また、サービス業でも、国内外の景気が下押しされ、需要が減少するとの懸念から、中東情勢の影響による追加的なコスト上昇分まで販売価格に転嫁していくことは難しいとの声も聞かれた。

5. おわりに

これまでみてきたように、わが国では長年続いた賃金・物価が上がりにくいことを前提とした慣行

や考え方はここ数年で変化しており、地域の消費関連企業の価格設定行動も従来よりも積極化している。そうしたもとで、最近では、消費者の節約志向やメリハリ消費の動きに対応する様々な工夫を凝らしつつ、原材料費の上昇分だけでなく、人件費等の上昇分を販売価格に転嫁する価格改定の動きが着実に広がっている。

二〇二六年度の価格改定方針に関しては、大半の企業が、自社の人件費上昇のほか、取引先の人件費由来の仕入費用、外部委託費用、物流費用等の上昇を受け、値上げを計画していることが確認された。加えて、中東情勢の影響を受けた原油価格の高騰等を背景に、大幅なコスト上昇に見舞われているとの声や、先行きの広範なコスト上昇を見込んでいるとの声が聞かれており、今後の中東情勢を巡る展開やその影響次第では、多くの企業が追加的なコスト上昇を受けて、値上げを進めていくこ

とが考えられる。

日本銀行としては、高水準の賃上げを受けた人件費上昇の販売価格への転嫁が継続する中、中東情勢の展開が、今後、地域の消費関連企業の価格設定行動をどのように変化させるのか、引き続き丹念に点検していきたい。



【第2回】資産形成の基本

——「長期・積立・分散」でお金を育てる

前回は、資産形成の前提となる「生活設計・家計管理」の重要性について取り上げましたが、今回は、資産形成の基本となる考え方、「長期・積立・分散」についてです。

投資は短期で利益を狙うものではなく、時間を味方につけるほどリスクが平準化され、成果が安定すると言われています。積立投資のように一定額を定期的に購入する方法は、価格が高い時は少なく、安い時は多く買うことで平均購入単価を下げる効果が期待できます。さらに、特定の資産に偏らず、複数の資産や地域に分散することで、一部の資産が値下がりしても全体の振れを抑えることができます。

また、長期で積み立てるメリットとして「複利」の存在も見逃せません。運用益を再び運用に回すことで、利息が利息を生む循環が生まれ、時間とともに資産の増加が加速する可能性があります。短期間で結果を求めず、時間をかけてコツコツ積

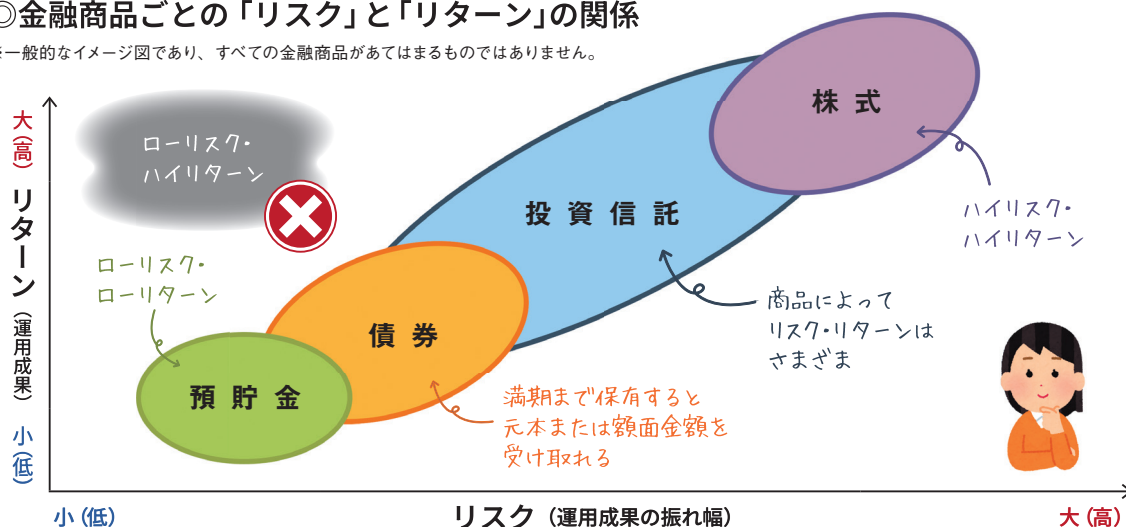
み立てる姿勢が重要です。

投資には当然リスクが伴いますが、リスクとは将来期待される運用成果(リターン)の「振れ幅」であり、損をする可能性だけを指すものではありません。むしろ、どこまで値下がりかを許容できるかという自身の「リスク許容度」を把握し、適切な運用方法を選ぶことが重要です。リスクとリターンは比例関係にあり(図表)、「ローリスク・ハイリターン」の金融商品はありません。正しい理解が、過度な不安や甘い誘いに流されないための備えにもなります。

一口に資産形成といっても、現在の状況やライフプラン、リスクへの考え方は人それぞれです。自分だけで考えるのではなく、専門家などに相談するのもよいかもしれません。資産形成は長い取り組みだからこそ、正しい知識や信頼できる助言を上手に取り入れながら、継続していく姿勢が大切です。

◎金融商品ごとの「リスク」と「リターン」の関係

※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品が当てはまるものではありません。



J-FLECのホームページでは、皆さんの生活に役立つ、お金に関するさまざまな情報を掲載しています。

<https://www.j-flec.go.jp/>

J-FLEC

検索



「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験」 『パイロット実験』の 進捗報告書」を公表

▼日本銀行は、「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験『パイロット実験』の進捗報告書」（本冊、別冊）を六月に公表しました。

▼CBDCに関するパイロット実験は、日本銀行が構築した実験用システムを用いて性能試験等を行う「実験用システムの構築と検証」と、日本銀行が事務局となり、民間事業者のご参加

のもと、CBDCエコシステム全体について実務的な議論を行う「CBDCフォーラム」の二本の柱から構成されています。

▼本報告書の本冊では、実験用システムのパートにおいて、これまでの検証を通じ、オンライン決済を前提とした場合には、CBDCの社会実装に関して致命的で解決できない技術的問題は見つかっていないことを示しました。また、フォーラムのパートでは、昨年度中の議論・検討の内容を紹介するとともに、幅広いテーマに関して双方向かつ解像度の高い議論を行うため、



中央銀行デジタル通貨に関する実証実験
「パイロット実験」の進捗報告書（2026年6月）

日本銀行決済機構局
2026年6月

七つのワーキンググループを三つのディスカッショングループに再編することを示しました。別冊では、読者の理解を深めるべく、

実験用システムのパートの詳細な説明や、フォーラムでのこれまでの議論の内容の総括を行っています。

▼日本銀行では引き続き、パイロット実験での多角的な検討と議論を続けていく方針です。報告書は、日本銀行ホームページをご覧ください。



「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会（第二一回）」および 「CBDCフォーラム 全体会合（第六回）」を開催

▼日本銀行は、「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」を五月に開催しました。同協議会は、中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みについて、民間事業者や政府との情報共有を図るとともに、今後の進め方を協議するものです。

▼一回目となる今回の協議会では、日本銀行から、「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験

『パイロット実験』の進捗報告書」や、CBDCフォーラムの今後の運営方法、CBDCを巡る諸外国の動向などについて説明しました。続いて、財務省から、CBDCに関する関係府省庁・日本銀行連絡会議での検討状況についてご説明いただき、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼また、本年六月に対面形式で開催した「CBDCフォーラム全体会合（第六回）」では、連絡協議会と同様に「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験『パイロット実験』の進捗報告書」や、CBDCフォーラムの今後の運営方法、CBDCを巡る諸外国の動向などについて説明したほか、進捗報告書の別冊の内容について技術的な論点を中心に紹介し、参加者の方々との意見交換を行いました。

▼各会合の議事概要や最新情報は、日本銀行ホームページをご覧ください。



編集後記

■ 令和8年熊本地震により犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

■ 今号の「対談」では、東京藝大の日比野学長と増審議委員が、社会課題を解決する上でのアートの役割について語り合いました。東京藝大の前身である東京美術学校の校長を務めた岡倉天心は、横山大観や菱田春草らを育成し、晩年はボストン美術館に招かれ、西洋に日本文化の素晴らしさを伝えました。それから1世紀余を経て、東京藝大は、能や茶道から現代のメディアアートまで、文化や芸術が持つ力で私たちの世界を豊かにする取り組みを進めており、天心の思いが今日まで受け継がれているように感じます。

■ 「インタビュー」では、書家の紫舟さんにお話を伺いました。ご自身の中で特に印象に残っている作品として、東日本大震災後に、多くの人々の心をつにし、力を合わせていくことへの願いを込めて創作した「日本一心」を挙げられました。被災された方々に思いを寄せながら、今、私たち一人一人に何ができるのかを考えることが大切であると思います。(村國)

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文を日本銀行ホームページ上に掲載しています。
(https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp>) をご覧ください。

にちぎん 2026年秋号
編集・発行人 村國 聡
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-1947

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 サンバートナース株式会社
禁無断転載



金融研究所貨幣博物館
企画展「国芳『福』あつめ
―故郷・日本橋で再発見―

▼日本橋(現・本石町)に生まれ、晩年も日本橋(現・人形町)で過ごしたとされる奇才・歌川国芳。その日本橋にある貨幣博

物館にて、かつてない視点の国芳展を十月三十日から開催します。

▼著名な「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」や「流行猫の戯」シリーズから、これまであまり紹介されてこなかったお金や福にまつわるアイテムがちりばめられた役者絵や福神絵まで、貨幣博物館所蔵の国芳の浮世絵、約五〇点をご紹介します。

▼江戸経済の中心地・日本橋で、地元が生んだ絵師の筆致から、福に彩られた江戸の文化をご覧

ください。

【入館料】無料

【休館日】月曜日(ただし祝日は開館)、年末年始(十二月二十九日～一月四日)

【開館時間】午前九時三十分～午後四時三十分(入館は午後四時まで)

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。



【所在地】東京都中央区日本橋本石町一―三―



from Hong Kong

香港映画の復活



かつて九龍城砦があったエリアには、当時をしのばせる古いアパートも残っている

1980年代から90年代にかけて、歌謡曲や映画など、香港の大衆芸能が強い輝きを放った時代がありました。圧倒的な歌唱力で日本でも名声を博した台湾出身のテレサ・テンは、長い間香港を拠点とし、広東語でも多くの名曲を残しました(注)。また、ファイナルファンタジーⅧのテーマ曲を歌った北京出身のフェイ・ウォンも、広東語の曲を多く歌いました。この時代、中国大陆の十数億人の中国人民も(歌詞カードやカラオケの字幕がなければ)理解できないはずの広東語のポップスに熱狂したのです。しかし、2000年代になると広東語のポップスは次第に廃れていき、アジアンポップスの中心地は台湾や韓国に移っていきます。足元ではK-POPが世界を席巻しているのは皆さんご存じの通りです。

映画でも、香港がアジアの映画界をリードした時代がありました。ブルース・リー、ジャッキー・チェンのカンフー映画からウォン・カーウアイ監督の『恋する惑星』まで、次々と話題作が香港で製作されます。しかし、世紀が変わると映画でもヒットが出なくなってきます。

2024年に、香港映画界から突然こうした停滞を打ち破るメガヒットが生まれました。『トワイライト・ウォリアーズ 決戦! 九龍城砦』(以下、「トワイライト」)です。この作品は、義理人情で成り立つ無頼者の世界を余すことなく描き出す香港映画の魅力を満載した任侠映画で、世界興行収入は150億円を超えたとされています。香港での観客動員数も過去最高を更新しました。久々に香港映画が日本でも大きな反響を呼び、聖地ツアーで香港を訪れた日本人旅行者も多いと聞きます。

これまで、香港芸能界の全盛期を知る世代からすると寂しい状況が続いてきましたが、「トワイライト」を復活ののろしにして、広東語の芸能界が盛り上がってくれることを香港住民として心から願っています。

(日本銀行香港事務所)

(注) 彼女の母語は北方官話です。これは中国大陆では「普通話」、台湾では「国語」と呼ばれ、中国大陆の主に長江以北の地域で話される中国語の一種です。

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



「トワイライト」のセットは九龍城砦の跡地の公園に展示されている



映画のロケ地となったレストランには、聖地ツアーで訪れる日本人観光客も多い



にちぎん